

令和元年度

第1回 防犯ボランティア活性化フォーラム を開催

令和元年10月21日(月)、刈谷市産業振興センターにおいて、「令和元年度第1回 防犯ボランティア活性化フォーラム」を開催しました。

本フォーラムは、防犯ボランティア団体の課題を洗い出し、解決策を見いだすとともに、防犯ボランティア団体自体やこれを支援する行政、警察がそれぞれ取り組むべき方向性を考える機会とするために開催するもので、自治会や防犯ボランティア団体、自治体職員、警察署員など約210名が参加しました。

<基調講演>

【講師】 明治大学理工学部建築学科教授 山本 俊哉 氏 (※)

【演題】 「地域防犯活動から広がる 犯罪に遭いにくい防犯まちづくり」

【概要】

- 子供の犯罪被害を予防するには、見守り活動をすることで「潜在的犯罪者」が「標的となる子供」に近づきにくい時間・場所をできるだけ少なくする工夫が必要。
- 防犯ボランティアによる登下校時の見守り活動に対して、子供は「大人の目がある窮屈感」よりも、挨拶などのコミュニケーションを通じて「自衛意識と安心感」を感じている。
- 「子ども110番の家」は、地域の人々を繋げていくツールとなるため、子供たちにとって身近なものになるよう、ハロウィンなどのイベントと併せるなど、楽しい要素を取り入れながらPRしていくことも必要である。
- 地域内の問題点を洗い出し、学校・PTA・自治会・商店会・警察・自治体などが行う防犯に関する取組をリストアップし、役割分担と協力関係を確認すると、各々の関係性が見えてくる。

(※)山本教授は、「都市計画、都市防犯」が専門で、都市景観や建築防犯の観点から、子供の安全対策を始めとした防犯まちづくりの調査研究を行っている。



<防犯ボランティア団体発表>

【発表者】 平子学区防犯協会 (名古屋市緑区) 会長 高山 光直 氏

【テーマ】 安心して楽しく暮らせる地域づくり

【概要】

- 「平子みまもり隊」は、小学校児童の下校時に1年生に毎日付き添い保護者に引き渡す活動と、全学年児童の定点見守りを行っている。平成18年に始まり、任意参加のボランティア活動を強調して進めた結果、年々参加者が増え、全地域・全世代の繋がりを生み出す原動力となってきた。子供たちとのふれあいが「生きがい」になっている方も多数。
- 地域の繋がりをさらに広げるため、組織や団体の囲いや、世話をする人と世話になる人の概念を外し、「勝手にボランティア 生涯ボランティア」をモットーに、気が向いた時に、勝手に、生涯通じて、できる範囲で、楽しんで活動することを目指している。

